

Sumitomo Foundation News Vol.1

発刊に当たり

「225億円の基金で100億円の助成を」

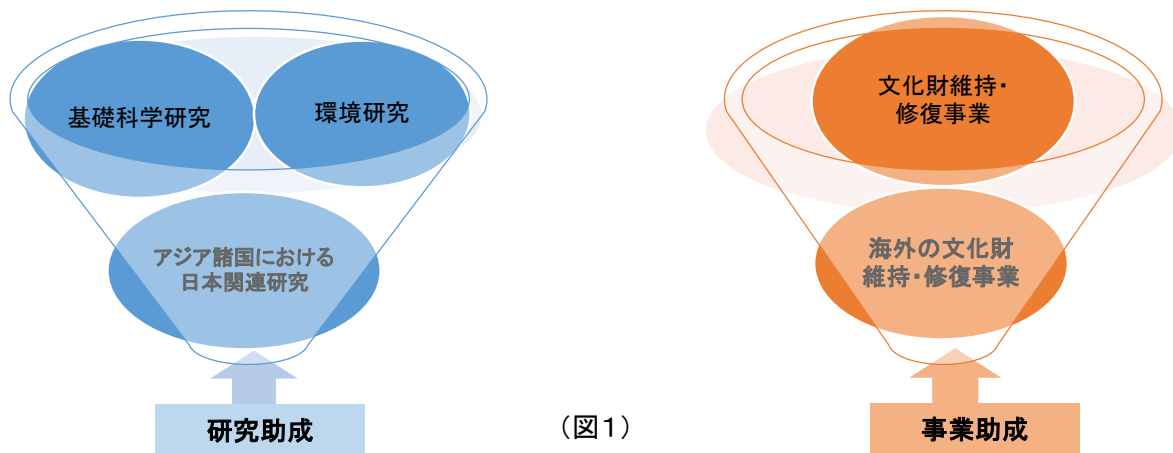
この数字は、2021年に創立30周年を迎える住友財団が達成した助成実績です。

人類の豊かな社会の建設に資するために、財団は「基礎科学研究助成」「環境研究助成」「文化財維持・修復事業助成」「海外の文化財維持・修復事業助成」「アジア諸国における日本関連研究助成」の5つの公募助成プログラムを中心に助成を行っています(図1参照)。

これまで助成財団の多くは、「助成」という行為は「陰徳」であり、対外的に喧伝することは控えるべきである、と考えてきました。しかし、2008年の公益法人改革以降、公益法人は「民による公益の増進」を担うべき存在として、自主的かつ積極的な様々な対外活動が期待されるようになりました。それに伴って財団の活動を、広く一般に知らしめることでこうした活動を社会全般に拡げてゆくことや、社会のニーズ、時代の要請に適うよう、より良い活動へと改善してゆくことが求められるようになりました。

この度、住友財団ニュースを発刊するにあたり、財団を取り巻く環境の変化を踏まえ、ご寄付をいただいた住友グループ各社、更には様々な形で財団の活動をご支援頂いている皆様をはじめ、多くの一般の方にも住友財団の活動をより良く知って頂くために、具体的かつリアルタイムな情報を提供して参りたいと考えております。

引き続き皆様方のご支援ご協力を賜りたく、今後「住友財団ニュース」に対するご意見、ご要望等積極的に頂戴できれば幸甚に存じます。



主な活動内容(2018年4月~7月) *(詳細紹介)

- * 1. 4月、基礎科学研究助成・環境研究助成の募集開始 (応募:基礎科学1286件、環境477件)
- * 2. 4月、「文化財維持・修復事業助成」で修復を完了した文化財の視察のために岩手県へ出張(盛合家訪問)
- 3. 6月、年次報告書2017発行
- * 4. 6月、第10回評議員会、第39回理事会開催
- * 5. 6月、修復助成対象文化財の現地確認と島嶼部の文化財の保存状況や保存のあり方等の確認のために対馬へ出張
- 6. 7月、環境研究助成選考委員会、基礎科学研究助成選考委員会開催
- 7. 6~7月、日本関連研究助成の応募奨励等を目的に海外出張 (6月は中国、7月はマレーシア・シンガポール・インドネシア(一部)に出張)

財団プログラム紹介（その1）

① アジア諸国における日本関連研究助成について

～相互理解と国際協調をめざして～

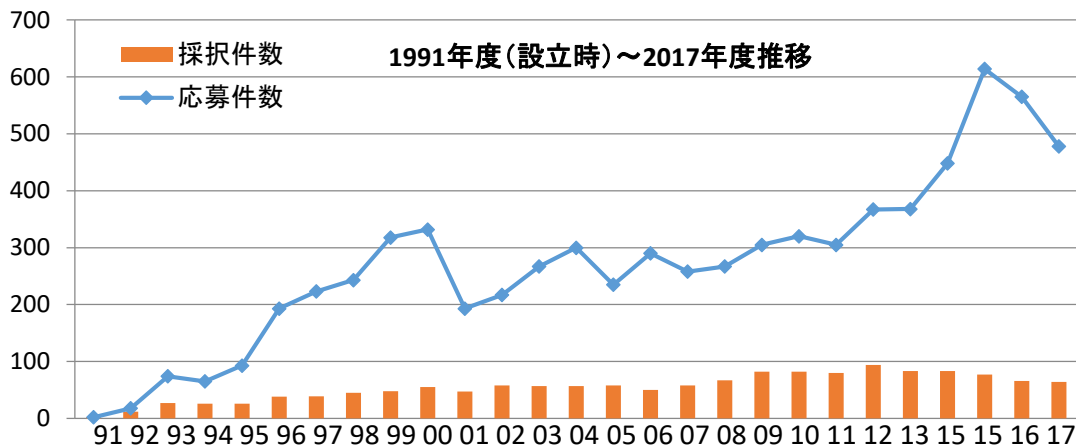
国際的な相互理解を増進するという、グローバルな視点に立ったプログラムです。アジアの大学等の研究者を対象に、日本に関連するテーマの研究に助成するものです。助成は公募により募集した申請を国別のスペシャリストである選考専門委員(大学教授等)が一次査定し、最終2名の選考委員が候補を選び理事会で決定します。

助成金総額:5,000万円 ・募集期間 2018年9月1日～10月31日 ・助成件数の目処 80件程度

* 累計(1991～2017年) 助成金額 1,129百万円、累計応募件数 7,358件、累計採択件数 1,481件

2017年度採択された主な研究テーマ

- ・中国人観光客の日本での消費行動の分析と対応
- ・日本の高等教育の国際化の理解(インドネシアの教育への示唆、提言、比較)
- ・歴史としての金大中・小渕日韓共同宣言
- ・マレーシアの民主化への日本の支援
- ・食の安全性と持続可能性(日本とマレーシアの比較研究)
- ・日本におけるフィリピン人移民女性の健康リスクと福祉問題
- ・マヨネーズ製造プロセスの比較研究(日本と台湾)と機能性を付与した新製品の開発
- ・ベトナムに投資する外国企業の社会的責任(CSR)の履行について(日中企業の比較)



② 基礎科学研究助成について

～基礎研究の裾野の拡がりを～

【助成の概要】

本助成は、理学(数学、物理学、化学、生物学)の各分野(工学の基礎となるものを含む)及びこれらの複数にまたがる分野の萌芽的な基礎研究に助成を行うものです。

【助成の背景】

人類の進歩は科学技術の進展に負うところが大きく、そのためにはイノベーションが不可欠です。イノベーションの基となる新たな発想・発見の多くは若い優秀な研究者の柔軟な思考から生まれています。新たなものに挑戦しようとする研究者のチャレンジングな姿勢をサポートするのが、本助成の趣旨です。重要でありながら研究資金が十分でない若手による萌芽的研究への支援を行うものです。



助成金総額:1億5,000万円

・募集期間 2018年4月15日～6月30日

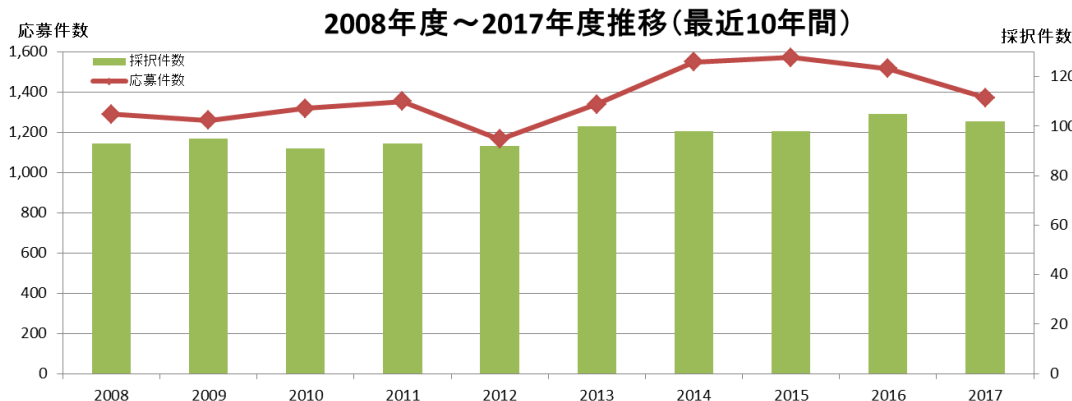
・助成件数の目処 90件程度

* 累計(1991年～2017年) 助成金額3,640百万円、累計応募件数 27,655件、累計採択件数2,205件

【募集・採択の状況】

公募により広く国内の研究者を対象としますが、大学院生、国内の大学等所属の外国人研究者、海外の大学等所属の日本人研究者も対象としています(科研費は大学院生や海外の大学等所属の日本人は対象外です)。

募集は4月～6月で、助成金は最大500万円、総額は1億5,000万円です。期間は1年間(2年間の延長可)です。



【選考】

選考は委員長を含む13名の委員で構成される選考委員会で行います。選考基準は「萌芽性、計画性、学術性、必要性」です。

2012年度ノーベル生理学・医学賞受賞の山中伸弥教授は当財団の2000年度基礎科学研究助成の助成対象者でした。



【その他】

助成対象者からプログラムに対する意見や研究資金の状況等30項目に亘るアンケートを30年近くにわたり実施し、研究者の視点に立った助成制度づくりに反映しています。

評議員会、理事会

平成30年6月6日(水)、第10回評議員会と第39回理事会を開催しました。



定時評議員会は6月に年1回、定例理事会は3月、6月、10月に年3回開催されています。

今回は下記の議案の決議、報告が行われました。

評議員会:

- (1) 新任理事に清家 篤氏(前慶應義塾長)を選任
- (2) 規程改定
- (3) 平成29年度(第28期)事業報告及び決算報告 ほか

理事会

- (1) 公益認定状況等報告
- (2) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

なお、次回理事会は10月開催予定です。

国内出張

① 岩手県宮古市出張(2018年4月20日)

～震災による被災文化財の修復を終えて～

修復を完了した文化財の視察のために、岩手県宮古市にある盛合家を訪問しました。

盛合家は三陸海岸で漁業・交易を中心に酒造業・金融業で隆盛をなした代表的商家です。江戸時代後期の当主は書画・漢詩を愛好し、さまざまな作品を多数所蔵していました。しかし2011年の東日本大震災による津波で文化財の多くが甚大な被害を受けました。

文化財レスキュー(文化庁を中心とした被災美術工芸品等の応急措置)により救援された書画10点のうち5点は当財団ほか民間の助成により本格的な修復が実施されました。

盛合家当主と宮古市教育委員会は、今回、修復を完了した文化財を盛合家主屋(国登録有形文化財)、庭園(国登録記念物)とともに特別公開しました。また、博物館(崎山貝塚縄文の森ミュージアム)においても展示を行いました。展示に際しては、いずれの作品の説明パネルにも、修復は住友財団ほかの助成により実施された旨、謝辞が記載されました。



漢詩襖・亀田鵬斎筆 紙本墨書・江戸後期・4面



扇面貼交屏風 紙本墨書・墨画淡彩・江戸後期・扇面72面・六曲一双

② 対馬出張(2018年5月18日～19日)

～島嶼地区修復文化財とツシマヤマネコ保護プロジェクト(住友大阪セメント)～

対馬は、福岡の北約130km、釜山(韓国)からは約50kmの近距離にあり、地勢的に朝鮮半島と九州本土との中間に位置し、古くから我が国と朝鮮半島との交流の窓口となっていました。

対馬には大陸からもたらされた仏教教典や文物の他、江戸を往来する朝鮮通信使の記録、対馬藩の業務記録等のいわゆる「宗家文書」など、貴重な文化遺産が数多く残されています。

今回の出張では、住友財団の助成対象である長松寺所蔵の「高麗版大般若経」並びに多久頭魂(たぐずだま)神社所蔵の「高麗版一切経」(いずれも重要文化財)の修復状況を確認すると共に、「宗家文書」をはじめとする宗家に残された膨大な歴史資料群、「朝鮮通信使絵巻」等を拝見しました。

また、県職員の図らいにより対馬市長と面会する機会を得ましたが、その際住友財団の修復助成に対する感謝の言葉と共に、住友大阪セメントによるツシマヤマネコ保護活動【注】に対して心からの謝辞を表されました。

文化財は民族の歴史の足跡であり、次世代に継承すべき貴重な財産でもあります。住友財団は、今後も文化財維持・修復事業助成を有益かつ持続可能なものにするべく、更なる努力を重ねて参りたいと思います。



和多都美(ワツミ)神社前の海に建つ鳥居



長松寺「高麗版大般若経」

【注】

住友大阪セメント株式会社はかつて同社の原料採掘用地として取得した対馬の森林約16%を無償提供し、絶滅危惧種に指定されたツシマヤマネコの保護活動に従事しています(詳しくは同社のホームページをご覧ください)。

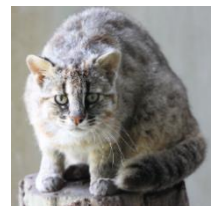


写真 ツシマヤマネコ
「環境省対馬野生生物保護センター提供」